

指定管理者評価シート

| | | | |
|-----|--------------|-----------|-------------------------|
| 事業名 | 札幌芸術の森等運営管理費 | 所管課(電話番号) | 市民文化局文化部文化振興課(211-2261) |
|-----|--------------|-----------|-------------------------|

I 基本情報

| | | | |
|---------|--|------|--|
| 1 施設の概要 | | | |
| 名称 | 札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館 | 所在地 | 【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条12丁目 |
| 開設時期 | 【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月 | 延床面積 | 【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡ |
| 目的 | 【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。 【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。 | | |
| 事業概要 | 【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。 【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。 | | |
| 主要施設 | 【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等 【札幌彫刻美術館】 本館: ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館: 展示室1～4、ロビー | | |
| 2 指定管理者 | | | |
| 名称 | 公益財団法人札幌市芸術文化財団 | | |
| 指定期間 | 平成30年4月1日～令和5年3月31日 | | |
| 募集方法 | 非公募 非公募の場合、その理由: 札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を活かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。 彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。 | | |
| 指定単位 | 施設数: 2施設 複数施設を一括指定の場合、その理由: 施設の設置目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費削減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括管理している。 | | |
| 業務の範囲 | 施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務 | | |
| 3 評価単位 | 施設数: 2施設 複数施設を一括評価の場合、その理由: 2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。 | | |

II 令和3年度管理業務等の検証

| 項目 | 実施状況 | 指定管理者の自己評価 | 所管局の評価 | | | | | | | | |
|--------------|--|---|---|---|---|---|---|--|--|---|--|
| 1 業務の要求水準達成度 | | | | | | | | | | | |
| (1)統括管理業務 | <p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とするため、次の5つの基本方針を策定している。</p> <p>①札幌芸術の森の特性を活かした魅力ある多彩な事業の実施 ②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり ③自然と調和した事業展開と場づくり ④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実 ⑤安全で利用しやすい施設づくり</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、次の4つの基本方針を策定している。</p> <p>①本郷新の顕彰及び関連情報の収集・保存・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>【札幌芸術の森】 利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。 受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、利用者に向けた施設利用のしおりを作成した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。</p> | <p>第4期指定管理期間において、札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: yellow;">C</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>札幌芸術の森において、住民監査請求における監査員より、文書記録の不備について意見を受けたことから、業務上の記録を適切に管理するなど、透明性のある管理運営体制の構築に取り組んでいく必要がある。 なお、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を行うなど、サービスの向上に努めている点は評価できる。 また、工芸館のスポットライトや屋外の街路灯のLED化を行うなど、様々な節電等対策や環境に配慮した取組を行っている。</p> | A | B | C | D | | | C | |
| A | B | C | D | | | | | | | | |
| | | C | | | | | | | | | |

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

夏場28℃、冬場24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象にクールビズを促進した。

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引いたり、不在時の消灯を徹底する等、更なる節電に努めた。
- ・従来より実施している、野外美術館シンボル彫刻の前の人工滝揚水ポンプの週末限定運転を引き続き実施するなど、消費電力の削減を図った。
- ・電力需要が逼迫する野外ステージの大型イベントの開催時に自家発電を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。
- ・美術館展示室に続き、工芸館のスポットライト、また屋外の街路灯のLED化を進めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を抑えるとともに、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

省エネについては人工滝揚水ポンプの週末限定運転や照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に努めた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。

▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理課長を配置している。

▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員6人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

《4月》

新規採用職員研修

安全運転講習

《7～8月》

新任課長職・新任係長職研修

《6月・10月》

パソコン研修

《随時》

公益法人会計セミナー

《2～3月》

管理職マネジメント研修(個人情報保護・情報セキュリティ・SNSのリスクを知る)

コンプライアンス研修(個人情報の扱いなど情報セキュリティを含む)

SDGs研修

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な人員配置を行った。業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。

また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

R3年度、木工房夜間利用の安全管理についての方針を所管部局とともに検討した結果、これまでの無人で行っていた夜間貸出を有人とすることを求められることとなった。これに対応すべく、必要な人材の確保のため、職員の募集を方々で行ったが、専門的な知識と経験を有する職員に限定されることや夜間勤務という労働条件等から、応募者がなく体制を整えられない状況が続いている。昨年、人材不足が社会的な問題となる中、安全を確保しながら安定的に夜間利用を提供できる方法を多角的に検討していく。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員3人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

《4月》

・現場研修「彫刻の設計図」展

・現場研修「100の石膏像」展

《6月》

・現場研修「この地ならではの表現を求めて」講話

《7月》

・現場研修「宮の森」展

・現場研修「40年のあゆみ展」

・ハロー！ミュージアム協力員研修

《10月》

・現場研修「高橋喜代史展」

・ハロー！ミュージアム協力員研修

・現場研修 防災訓練

《12月》

・現場研修「社会性なきところに現代アートの魅力はない」講話

《1月》

・現場研修「雪像彫刻展」

・現場研修「はじめてのほんごうしん」展

・ハロー！ミュージアム協力員研修

《3月》

・現場研修「徹底討論・これからの10年」講話

▼ 事業内容や運営の実務については、美術館内の会議を通して職員間での共通理解を深めた。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。

▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体の情報共有を行った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

【札幌芸術の森】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。

▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

▼札幌芸術の森運営協議会の開催

| 開催回 | 協議・報告内容 |
|-----------------|--|
| 第1回 (6月22日) | (1) 令和2年度管理運営業務の報告について (2) 令和3年度管理運営業務の経過報告について |
| 第2回 (9月24日) | (1) 令和3年度管理運営業務の経過報告について (2) 札幌芸術の森駐車場利用料金(回数券)について |
| 第3回 (12月15日) | 令和3年度管理運営業務の経過報告について |
| 第4回 (3月23日) | (1) 令和3年度管理運営業務の経過報告について (2) 駐車場予約券について |

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたる項目について、様々な分野の方々からご意見をいただいた。令和3年度は令和2年度に引き続き駐車回数券の運用について検討を重ね方針を定めたほか、「貸館予約状況をホームページで閲覧できるようにできないか」など、委員の幅広い見地からの意見を募ることで、より良い運営方法について検討が進んだ。

<協議会メンバー>

地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長
利用者：施設利用者
有識者：放送局、新聞社、旅行代理店、大学教授、MICE団体
ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア
札幌市：市民文化局文化部長
指定管理者：芸術の森事業部長

▼政策推進連絡会の開催

開催日 令和4年1月21日 14時30分～16時30分
意見交換等の項目
・令和3年度の予算執行見込みについて
・令和4年度の事業展開について
・次期指定管理更新に向けた確認事項について

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

| 開催回 | 協議・報告内容 |
|--|--|
| 第1回 6月24日 *書面開催 | ・新型コロナウイルス感染症の影響と対応 ・令和3年度事業計画 |
| 第2回 10月15日 | ・新型コロナウイルス感染症の影響と対応 ・令和3年度事業計画報告(上半期) |
| 第3回 2月4日 *書面開催 | ・令和3年度事業計画報告 ・令和4年度事業企画状況 |
| <協議会メンバー> 利用者団体:札幌市立大倉山小学校PTA 利用者団体:札幌彫刻美術館友の会副会長 地元自治会:宮の森明和会会長 学識経験者:札幌市立三角山小学校校長 財団評議員:彫刻家 札幌市:市民文化局文化部文化振興課課長 指定管理者:彫刻美術館館長(芸術の森事業部彫刻美術館課長) | |

▼政策推進連絡会の開催

開催日
令和4年3月3日 15時00分～16時30分
意見交換等の項目
・今年度の予算執行見込みについて
・次年度の事業展開について
・次期指定管更新に向けた仕様書の確認について
・各種協議事項
・防犯カメラの設置について

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。

▽ 要望・苦情対応

【札幌芸術の森】

▼ お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内LANによるグループウェアソフト等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。
また、多くの意見が寄せられた利用者アンケートは、対応なども含めホームページで閲覧できるように対応した。

▼ 札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。

当施設の運営について、多岐にわたる様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者や専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に活かした。

資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。

来園者からの要望は真摯に受け止め、対応可能な案件は迅速に改善するよう努めた。

| | | |
|--|--|--|
| | <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。</p> <p>▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理業務に関する諸規程 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する書類 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。</p> <p>▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。</p> | <p>来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。</p> <p>業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。</p> <p>更に、R3年度に所管部局より、外部との打ち合わせの記録や適切な文書保存等について指示があり、これについても事務を見直している。</p> <p>施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。</p> <p>施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。</p> |
|--|--|--|

| | | | |
|-----------------------------|--|--|--|
| <p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> | <p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> | | <p>A B C D</p> |
| | <p>【札幌芸術の森・本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。</p> <p>▼ 木工房の管理運営にかかる法令・通知・公示と安全衛生の向上や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に努めることとしたほか、労働安全衛生法に準拠した木工房管理マニュアルを整備し、より一層安全な工房管理に努めている。</p> <p>▼ 労働災害・事故について、5件の労働災害が発生した。内1件は、令和2年度に起きた事故を令和3年度に遡って労災を申請した。</p> | <p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。資格や経験などの条件により人材確保が難航している木工房では、工房利用がある場合、休憩時間を一度にとることが難しい日については、時間を分けた分散取得により対応しているが、事故防止の観点から休憩時間を一度に取得できるよう職員の確保に努めるほか、工房利用方法について見直しを行っている。</p> <p>また、札幌市ワークライフ・バランスplus企業(ステップ1)として認証を受けているほか、6年計画で策定した一般事業主行動計画を現在遂行中である。</p> <p>衛生委員会や産業医の職場巡視により、労災防止に努めたのに加え、令和3年度は木工房の安全な運営のための環境整備を進めた。また、労災が発生した際に的確な事務手続きが行えるよう、事故報告についての職員教育や職場環境づくりに取り組んだ。</p> | <p>札幌芸術の森において、令和2年度に労働基準監督署による調査により、一部労働安全衛生法の違反が判明し、是正勧告を受けたことについて、速やかに対処し、その後も適切な対応をしている。本件をきっかけに、安全衛生管理体制の充実を図るとともに業務効率化や業務分担の見直しなど、雇用環境の向上に真摯に取り組む、再発防止に努められたい。</p> <p>なお、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、様々な取り組みを進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p> |

| | | | |
|-------------------------|--|--|---|
| <p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p> | <p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> | | <p>A B C D</p> |
| | <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行っている。また、管理課職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を週に1回実施し、施設管理に係る情報共有を行った。</p> <p>▼ 園内へのヒグマ進入防止のため、園の外周に電気柵を設置し対策を講じている。電気柵の維持管理については、専門業者による早期の設置と定期点検を行うほか、職員による目視点検を日常的に行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。市内熊出没情報を注視し、周辺で熊の出没があった場合は、警備巡回の頻度を増やし来園者が安心して利用できる環境の確保に努めた。</p> <p>▼ 冬季は、除雪業者と連携をはかり、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないようにするとともに、安全の確保にも努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。</p> <p>▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間で随時共有している。</p> <p>▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。</p> <p>▼ 利用者の人身・物損事故はなかった。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。</p> <p>▼ 建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。</p> <p>▼ 記念館に常設の大型石膏像のうち1点に対して、転倒防止のため、壁面に固定する措置を行った。</p> <p>▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。</p> <p>▼ 利用者の人身・物損事故はなかった。記念館玄関での靴の盗難事件が1件発生したことを受け、鍵付きのシューボックスを設置した。</p> | <p>利用者の快適性、安全性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。園内において利用者、職員、委託業者等が被害者となる事故が発生することがないように、注意喚起を講じながら業務にあたっている。</p> <p>利用者の安全性、快適性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。</p> <p>野外彫刻作品、及び大型の石膏原型作品等の防災・保全方法の研究を進め、状況に応じた対策を講じられるよう努める。</p> | <p>両施設とも、施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p> <p>札幌芸術の森においては、野外美術館の作品が設置から30年以上経過していることから、引き続き日常の点検業務に努められたい。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる業務、電気・空調設備等の建物保守関係の業務、野外ステージや美術館に関わる管理業務等業務、合計42業務について第三者委託により実施した。</p> <p>▼ 主な修繕について</p> <p>①有島武郎旧邸外壁改修工事 ②工芸館倉庫渡り廊下内装復旧工事 ③野外美術館《隠された庭への道》周辺芝生補修作業 ④美術館収蔵庫ドア修繕</p> <p>▼ 野外美術館の作品は、その設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。日常的な点検は目視などの方法によるほか、9月以降、札幌市による彫刻作品の現況調査を実施し、これまでの修復歴や現状について情報提供を行うとともに、修復方法の探索を随時行った。</p> <p>現況調査日程:令和3年9月21日～24日、 10月11日～13日、 11月17日</p> <p>調査者:SDアート</p> | <p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。</p> <p>状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> <p>野外美術館の多くの作品が設置から約30年以上経過しているため、外観目視による日常点検では把握することができない内側の劣化も予想される。今後必要な対策のために、札幌市と共に保全方法の研究を進めている。</p> |
| <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。</p> <p>▼ 主に下記の修繕を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・本館玄関及びテラスタイル修繕・本館庭園ベンチ塗装補修・記念館電話配管修繕・記念館ボイラー点検修理 | <p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。</p> <p>状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> |
| <p>▽ 防災</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・第1回消防訓練(総合) 12月2日・第2回消防訓練(総合) 3月3日 <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・地震発生時を想定した消防訓練 10月22日 | <p>職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。</p> <p>職員の防災への意識を高めることができた。</p> |

| (4)事業の計画・実施業務 | 【札幌芸術の森】 ▽ 音楽・舞台芸術事業 芸術文化の発信事業として展開してきた「サッポロ・シティ・ジャズ(自主事業)」や、ユース世代の交流による新たな音楽の創造を目指す事業「ユースジャムセッション」、22年目となる札幌ジュニアジャズスクール事業を通年で開催した。 ▼ サッポロ・シティ・ジャズ2021 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催15回目を迎えた。 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催15回目を迎えた。会期は夏から冬にかけて開催し、夏には、芸術の森野外ステージにて2年ぶりの開催となる「ノースジャムセッション」を実施。国内のトップミュージシャンと地元を拠点に活動するプロミュージシャンが演奏した。併せて、ユースジャムセッションに参加した10代から20代のユース世代が、ワークショップの成果を発表した。秋に開催予定であったパークジャズライブはオンライン配信に変更し、117組が参加。同コンテストは、11月に音源審査により実施した。冬には、新型コロナウイルス感染対策を徹底し、札幌文化芸術劇場hitaruを会場に、舞台上にステージと客席を設け、優れた舞台機構を活かし「シアタージャズライブ」を開催したほか、札幌市民交流プラザ内のSCARTSコートを利用した普及コンサートや札幌市図書・情報館と共催したライブラリー企画などの事業を展開した。 企業・団体との提携では、テ・カ・ホを会場としたサッポロ・サウンド・スクエアや時計台ライブなどのタイアップ事業も実施した。 なお、海外プロモーションとして予定していた、過去2年にわたるパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣は中止し、次年度以降に見送った。 ▼ジャズサロン・プランナー育成講座 受講生自らがプロミュージシャンとともにサッポロ・シティ・ジャズのプログラムとしてジャズサロンの企画を立案し、広報や運営までを手掛ける実践型の育成講座を6月から12月の約半年間をかけて実施。成果発表として、12月にSCARTSコートを利用したジャズサロンを実施した。 | ノースジャムセッションとシアタージャズライブは、関係者全員のPCR検査を行う、客席数の間引き・チケット販売方法等の見直しを図ったほか、食事とアルコールの提供を中止し、新型コロナウイルス感染対策を徹底して開催した。 来場者からはコロナ禍でも本格的なライブを開催したことについて評価をいただき、公演に対する満足度は88.8%、接客対応に対する満足度は93.5%を得た。 また、緊急事態宣言によりライブ開催が困難となったパークジャズライブ、コンテストはウェブでの動画配信及び音源審査に変更し、26,000件を超える方々に楽しんでいただくとともに、若手演奏者の活動の機会を継続することができ、受講生がプロミュージシャンや専門家のアドバイスを受け、ジャズの魅力を伝えるジャズカフェを運営する手法を学ぶことで、将来的にジャズ事業の企画立案や運営を担う人材の育成に努めた。 | A B C D |
|---------------|---|---|---|
| | | | <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の事業は中止や開催制限となったが、施設とも、多様な事業が計画・実施されている。</p> <p>サッポロ・シティ・ジャズでは、感染症対策を徹底しつつ、2年ぶりにノースジャムセッションを実施したほか、冬には札幌市民交流プラザを活用したコンサートや地域の団体、企業とのタイアップ事業等を開催し、ジャズの裾野拡大に努めた。</p> <p>札幌ジュニアジャズスクールでは、新型コロナウイルス感染状況に注視し、リモートによる交流や練習を取り入れたほか、芸術の森園内での演奏会や道内ジャズスクール生との動画制作を通じた交流等、次代を担う子どもたちに、発表や交流活動の機会を提供した。</p> <p>パレエセミナーは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止になったが、ホームページに講師陣のメッセージを掲載することにより、事業を中止で終わらせるのではなく、受講予定者への配慮を怠らなかつた。</p> <p>美術館では、認知度の高い「ドラえもん」をテーマにした展覧会を開催し、幅広い年齢層への美術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>工芸・工房では、SNSを用いて作家の作品や展示の様子を情報発信することにより、クラフトの普及に努めた。</p> <p>彫刻美術館では、収蔵作品を活用した展示会等、多彩な事業を展開しており、彫刻芸術の情報発信に努めた。また、「宮の森」と美術文化を繋げた展覧会を実施し、地域の魅力普及に貢献した点は高く評価できる。</p> <p>以上により、本市の要求水準を上回っている。</p> |

▼ 札幌ジュニアジャズスクール

新型コロナウイルスの影響により、毎週末の定期練習が開催できない期間は、リモートによる交流やパート練習、フォトコンテストなどの企画を取り入れ、活動の継続を図ったほか、定期演奏会や芸術の森園内でミニコンサート、ユースジャムセッションでの活動を通年で行った。

また、ジュニアジャズ活動の振興を目的としたジャズの種プロジェクトは、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、交流ワークショップをオンラインで行ったほか、ようていと札幌のジャズスクールが倶知安町で合同演奏を行い、他2地域(広尾町・砂川市)はオンラインで繋ぎ参加し、演奏を配信しあう新たなコンサートの試みを行った。

緊急事態宣言中もスクール活動の継続を目指し、自宅からレッスンや交流会ができるようオンラインを活用し、外部講師の招聘やスクール生のアイデアによるフォトコンテストの開催など受講生のモチベーションの維持・向上に努めた。

卒業ライブの開催は叶わなかったが、受講生のアイデアを取り入れた札幌芸術の森園内での定期演奏会やミニコンサートを実施し、来場者からも評価をいただいた。

また、道内各地域のジャズスクールともオンラインによる交流や各地を繋いだ配信でのライブを試みるなど、創意工夫を重ねながら、一年を通じ、子どもたちが音楽に親しみ交流できる場を提供し、次世代育成事業活動を継続した。

新型コロナウイルス感染症により、開催直前の中止となったことから、受講生への対応とともに、申込者やホームページの閲覧者に対し講師陣のメッセージを公式ホームページに掲載した。

▼ パレエセミナー

日本人講師を迎え、開催33回目となるセミナーを実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大が急激に広がったことを受け中止とした。

受講申込者に対し、公式ホームページ上で講師陣から寄せられたメッセージを掲載した。

▼ ユースジャムセッション

ユース世代の交流とジャズセッションにより新たなサウンドを創造する3か年プロジェクトの2年目。道内ジャズバンドの参加を予定していたが内容を変更し、芸術監督タイガー大越のもと、ユース世代のビッグバンドとジャズコーラスの演奏を、ユース世代のビッグバンドとセッションのひとつとして開催。

札幌ジュニアジャズスクール中学生クラスやスクール卒業生、北海道グループキャンプの受講生など、ユース世代の音楽を志すメンバーによるスペシャルバンドを編成し、3日間のワークショップとユースジャムセッションでの発表を行った。また、初めての企画となるジャズコーラスワークショップを8ヶ月間にわたり開催し、ユースジャムセッションやシティ・ジャズのプログラムで発表を行った。

計画変更が生じたが、ユース世代のメンバーとアメリカ在住の芸術監督タイガー大越とをオンラインで繋ぎ、東京から招聘した講師や地元ミュージシャンの協力も含め、充実したワークショップを実施し、成果をユースジャムセッションセッションで披露し、来場者から好評を得ることができた。

▼ ビッグバンドプロジェクト

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンで編成した札幌ジャズアンビシャスの定期練習を通年で実施。1月には5度目の定期演奏会として、ユースジャムセッションワークショップに参加した中高生とのセッションや、弦楽アンサンブルと共演し、ジャズとストリングスの融合を披露した。

また、活動のプロモーションと地域交流を兼ね、石狩市、砂川市でライブに出演した。

定期演奏会では、2年目となるストリングスとビッグバンドの音楽を深めるとともに、ユースジャムセッションのプログラムの一環としてワークショップ講師を務め、ユースメンバーとの共演するなどの次世代育成と新たな音楽創造を目指し活動を行った。

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数:7本

総入館者数:109,390人

(自主事業「札幌美術展 アフターダーク」を含む。)

①「札幌美術展 アフターダーク」(札幌市補助事業)
会期:令和3年2月27日～4月11日
38日間(令和2年度28日間/令和3年度10日間)

入場者数:4,807人(令和3年度2,079人)

テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は、文明の発達に伴い人々が常に向き合ってきた「夜」という時間帯に焦点を当てた。私室で憩う人々や厳しい自然を生きる野生動物たち、覚醒と睡眠、生と死、夜空の星々、歓楽街のネオンなど、夜をめぐるさまざまな営為を主題とした表現活動を行う北海道および札幌の現代作家11組を選出、夜をめぐる表現の時代性や地域性を探求した。

本展では「夜」というテーマのもと、絵画・彫刻・写真・版画・イラストレーション・サウンドアート・メディアアート等、多彩な表現手段を用いた作品を紹介した。全国的に知られる作家や作品だけでなく、地域の美術家を市民に紹介していくことは、札幌の美術館として、地元の文化芸術を振興していく上での大きな意義を持つ。本展には若い世代も多く訪れ、美術家を志す学生から刺激になったという声が寄せられたほか、北海道在住作家の表現の多彩さに驚く声も多く寄せられた。今後も鋭意調査・企画を行ってきたい。

②THEドラえもん展 SAPPORO 2021

会期:令和3年4月29日～6月27日

60日間(内34日間臨時閉館)

入場者数:19,921人

「あなたのドラえもんをつくってください」をテーマに、国内外で活躍する28組のアーティストに作品制作を委嘱。本展のために制作された絵画、書、彫刻／フィギュア、映像、インスタレーションなど多彩なジャンルの作品を一堂に会し、国民的アイコンである「ドラえもん」をテーマにした創造世界を体感できる展覧会とした。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、会期の一部を休館した。来館者は、初めて美術館を訪れる層が全体の半数近くを占め、本展を契機にこれまで美術館になじみのなかった層や親子で訪れる来館者にも現代美術に接する鑑賞の機会を提供することができた。関連事業では、参加者がドラえもんに寄せる夢や思いを表現し、訪れる人と共有できるワークショップを行いコロナ禍におけるコミュニケーションの場とした。

③アート×コミュニケーション=キース・ヘリング展

会期:令和3年7月17日～9月26日

72日間

入場者数:27,768人

1980年代のアメリカ美術を代表するアーティスト、キース・ヘリングの回顧展。ストリート・アート、グラフィティ・アートの先駆者でもあるヘリングの功績を、絵画や彫刻、グッズなど、中村キース・ヘリング美術館が所蔵する作品によって紹介した。当館の自主企画展。

80年代に若者だった世代の40代、50代に加え、20代の来館も目立ち、若い世代への訴求が高めることができた。初めて来館する層と数年に1回来館する層が来館者の半数以上を占めるなど、普段は美術館に頻繁に足を向けない層の関心を獲得することができた。

④札幌美術展 佐藤武(札幌市補助対象事業)

会期:令和3年10月9日～令和4年1月10日

80日間

入場者数:7,620人

北海道札幌市・石狩市を拠点に活動する佐藤武の回顧展。地域にゆかりのある美術家を紹介してきた「札幌美術展」の第14回として行った本展では、佐藤の画業の変遷を詩とあわせて迎るとともに、立体作品や写真といった近年取り組む絵画以外の制作も紹介し、旺盛な創作活動を続ける作家像に迫った。また、アーティストトークは、実開催のほか期間限定で動画公開も行った。

一人の画家の歩みをたどり、通底する世界観を明らかにした。さらに絵画以外の作品もあわせて展示することで、多角的な観点から作家像を提示することができた。また作品の制作動画も制作プロセスを解き明かす助けとして展示し、好評だった。20代以下の客層が全体の3割を占め、若年層へも地域の文化を発信することができた。

⑤きみのみかた みんなのみかた
会期:令和4年1月22日～3月13日
44日間
入場者数:3,443人

札幌芸術の森美術館の所蔵する約1,700点の作品から、選りすぐりの作品64点を展示。自分なりの作品の見方を発見できるよう、作品キャプションを提示せず、ワークショップエリアを設けるなど展示に工夫を凝らした。関連事業として、「ハロー！ミュージアム」で取り入れている「対話による鑑賞」体験や動画配信などの鑑賞プログラムを複数実施し、教育普及事業の充実を図った。

あえて作品名や解説を行わず、鑑賞者が先入観なしに作品と対峙することで自由な発想を楽しんだり、自身の内面に気付くなど、「ただ見るだけでなく、普段気づかないさまざまな体験ができる仕掛け」を作り、期待以上の成果が得られた。
また、関連事業として、展覧会や作品の感想をカードに書き、ボードに貼り付けることで他者との共有を試みる「あなたのみかた」、ガラスにカラーシールを貼り付けたり、着色した雪玉をパネルに投げつけ着色したりして作品を制作する「きみのかたち みんなのかたち～みんなで作ってみた～」、展示室内をめぐり展覧会鑑賞とともに楽しむ「ひらくみかたツアー」などを開催。
いずれもSCARTSアートコミュニケーター「ひらく」のメンバーが企画し、美術館・SCARTSスタッフの協力のもとで運営を行った。

その他、SIAFとの協働による生配信のオンライン鑑賞プログラムを実施するなど、他団体との連携によって鑑賞機会の充実を図ることができ、大変好評だった。

⑥札幌芸術の森美術館コレクション選 新収蔵作品展

(一期)
会期: 令和3年2月27日～4月11日
38日間(令和2年度28日間/令和3年度10日
間)

会場: B展示室
入場者数: 2,139人(令和3年度1,679人)

令和2年度に新しく収蔵された札幌および北海道にゆかりのある作家の作品45点のうち10点の作品を展示。現代美術を代表する4名の新収蔵作品を紹介した。

(二期)
会期: 令和4年1月22日～3月13日
44日間

会場: B展示室
入場者数: 2,201人

令和3年度に新しく収蔵された札幌および北海道にゆかりのある作家の作品45点のうち7点と既存の収蔵作品3点を展示。既存の収蔵作品との関連性を検証した。

▼ 野外美術館

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、5月18日～6月20日、7月4日～11日、9月27日～30日まで休館となった。入口には消毒液を設け、以前は触れることが可能だった彫刻には手を触れないよう来館者に案内した。

来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア28名による作品解説を行った(5月14日～7月11日、8月27日～9月30日活動休止)。

野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、彫刻鑑賞ノートのほか、子ども向けには、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができるシールマップを制作販売した。また、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。

新収蔵作品を紹介することで、作品収集活動を継続的に実施していることを知っていただくことができた。また、当館のコレクションは現在1,768点を数える。札幌市民の財産として今後も積極的に紹介していきたい。

作品解説ボランティアは、ボランティア研修などを通じて研鑽を積み、定時解説、臨時解説など来館者の希望に応じた時間や内容で解説を行っている。新型コロナウイルス感染拡大防止の対策のため活動の一部制限はあったものの、来館者からは作品への理解が深まったと好評を得た。ボランティア研修を通じて今後も解説の質の維持向上を目指す。

▼ 教育普及に関する事業

佐藤忠良子どもアトリエにて、彫刻家・佐藤忠良の作品を中心とした当館所蔵品を展示するとともに、ワークショップを企画・実施した。

<ねんどで彫刻>

通年

合計263人

<ちびっこ油絵>

1月8日～30日までの土・日・祝日全9回実施

参加者:40人

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ねんどで彫刻」はキット持ち帰りを継続しつつ、感染防止対策の上、ワークショップも行うことができた。子供から大人まで創作、表現の楽しさを体験頂けた。
「ちびっこ油絵」は本格的な画材を使い気軽に体験ができることから人気の企画である。

▽ 工芸・工房事業

▼ 第21期工芸館常設展示事業

会期:令和3年4月29日～令和4年3月13日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため5月18日～6月20日まで中止。

会場:工芸館常設展示スペース「ベストポケット」
 回転販売額:5,003,274円(前年度実績:5,018,750円)

クラフト作家に展示機会を提供し、市民には良質な作品と出会い購入できる場を提供することによってクラフト文化の普及を図るため、工芸館の展示ホールに常設展示スペースを設置している。開設から21期目となる今年度は、春夏秋冬の4期ごとに20～25人程度の作家を入れ替えた。作品には作家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対してより親しみを持って展示となるよう工夫した。また特別企画としてマグカップを特集した特別展示「マグカップの森」(10月9日～1月10日)を実施、32名の作家が製作したマグカップ約230点を展示・販売した。

今年度の出品作家は北海道内で活動する78名。

前年度に引き続き芸術の森美術館の展覧会グッズ販売会場が工芸館展示ホール内に併設されたことによる相乗効果で、多くの来場者に展示作品をご覧いただけた。また多くの人に親しまれている「マグカップ」を特集、様々な素材・デザインのマグカップ100種類以上を一室に集めた展示は好評を博した。
 加えて会期中はSNSを用いてすべての作家の主な作品を日替わりで紹介、展示の様子を幅広くPRしたことによりアクセス数や問い合わせが増え、より多くの方にクラフトへの興味を持っていただける企画となった。

| | |
|---|---|
| <p>▼ 工芸・版画講習会事業</p> <p>会期：令和3年4月～令和4年3月 (令和3年5月～9月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止期間あり)</p> <p>会場：クラフト工房(大・中・小制作室)、木工房、織工房、版画工房、染工房</p> <p>講習会総実施回数：135回(前年度実績：8回) 講習会総受講者数：1,482人(前年度実績：53人) ものづくり制作体験キット販売個数：948個(前年度実績：496個)</p> <p>毎年、陶芸、テキスタイル、木工、七宝、ガラス、金工、版画の各分野の講習会を開催している。個人向けには初級から上級までの幅広いコースを用意しているほか、修学・研修旅行やPTA、企業等のグループ向けの「グループ講習会」、札幌市内の児童会館を対象とした子供向けグループ講習会、クラフト工房来館者が事前の申し込みなしで気軽に作品制作を体験できる「ふらっとクラフト体験」などを実施しているが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止または規模を縮小し開催した。</p> <p>昨年度より新たに企画した、気軽に制作体験出来るキット「おうちdeクラフト」については、新たに3種類のキットを追加販売した。オンラインストアでの販売を継続し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験出来る機会を創出した。</p> | <p>単に「つくる」という体験で終わらずに、作ったものを暮らしの中で「つかう」ことに重きを置いた内容で講習会を実施し好評を得た。制作技術の向上を目的に参加する市民向けには「自由制作教室」を開催したり、外部から講師を招聘して講習会を実施することでリピーターの獲得に繋げることができた。</p> <p>冬休みの時期には、当日受付で気軽に参加できるメニューの講習会を実施する工夫をし、好評を得た。</p> |
| <p>▼ アウトリーチ事業</p> <p>①ものづくり制作体験キットを活用した事業展開として、小学校授業の一環である札幌市主催の「学校DEカルチャー」を実施した。</p> <p>会期：令和3年12月 実施回数：1回(前年度実績：1回) 実施校：札幌市立北都小学校3学年(66名) 実施人数：66名(前年度実績：73名)</p> <p>②市内各施設に職員が出向いて工芸講習会の体験イベントを行った。</p> <p>会期：令和3年11月～令和4年1月 実施回数：16回 参加人数：187名</p> | <p>普及事業の一環として実施した工芸分野のアウトリーチプログラムには、普段、芸術の森に足を運ぶ機会が少ない市民にも参加してもらうなど芸術文化事業の紹介と制作体験の機会を創出することができた。</p> |
| <p>▽ その他の文化芸術事業</p> <p>▼ 「芸森アートマーケット」</p> <p>芸術の森の園内を会場に、市民の作品発表・展示の場を提供する事業として継続して実施しており、2回開催した。</p> <p>市民アーティストが様々なジャンルの手作りアート作品を持ち寄り、発表・展示・販売を行った。</p> | <p>年5回の開催予定のうち、新型コロナウイルス感染拡大により開催回数は減ったが、屋内や屋外を会場に、市民アーティストに発表・交流の場を設けることができた。</p> |
| <p>▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興</p> <p>これまで芸術の森の冬季集客促進のために共催していたライブイベント「OTO TO TABI」が2年連続で開催できなかったことから、感染対策を講じ、初夏の芸術の森野外ステージで開催した。</p> <p>また、園内の環境を活用し、マンガやアニメのキャラクターに扮するコスプレ撮影イベント「あめいず村」を共催で開催した。</p> | <p>意欲的な試みを実施したい他団体と提携し、芸術の森の施設や事業ノウハウを提供することで、新しい音楽文化の発信を行うことができた。</p> |

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

▼ 総入館者数11,846人
(本館7,502人、記念館4,344人)

【本館】

下記の展覧会を開催した。

●特別展

①「開館40周年記念展 宮の森 この地が生んだ美術」

会期: 令和3年7月13日～8月29日

42日間

入場者数: 795人

②「札幌彫刻美術館 40年のあゆみ展」

会期: 令和3年7月13日～8月29日、10月1日～令和4年1月16日、1月28日～5月31日(予定)

230日間(令和3年度178日間/令和4年度52日間予定)

入場者数: 3,088人(令和3年度)

③「第3回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 高橋喜代史展 言葉は橋をかける」

会期: 令和3年10月1日～令和4年1月16日

88日間

入場者数: 1,965人

④「さっぽろ雪像彫刻展2022」

会期: 令和4年1月28日～30日

3日間

入場者数: 652人

●コレクション展

①「本郷新・全部展③ 彫刻の設計図」

会期: 令和3年4月10日～5月3日

21日間

入場者数: 148人(令和3年度)

②「はじめてのほんごうしん」

会期: 令和4年1月28日～5月31日(予定)

106日間(令和3年度54日間/令和4年度52日間予定)

入場者数: 327人(令和3年度)

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型、制作道具などの常設展示を行った。令和3年度に2階の一角に本郷新や彫刻芸術に関する図書を自由に閲覧できる図書・情報コーナーを拡充した。

●コレクション展

①「没後40年記念 本郷新・全部展②」

会期: 令和2年10月3日～令和3年4月22日

167日間(令和2年度148日間/令和3年度19日間)

入場者数: 114人(令和3年度)

②「本郷新・全部展④ 100の石膏像」

会期: 令和3年4月29日～令和4年5月31日(予定)

247日間(令和3年度195日間/令和4年度52日間予定)

入場者数: 4,068人(令和3年度)

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞(第3回)(再掲)

・受賞記念展の開催

「第3回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 高橋喜代史展 言葉は橋をかける」

会期: 令和3年10月1日～令和4年1月16日

88日間

入場者数: 1,965人

「宮の森」展では、本郷新をはじめとした宮の森ゆかりの美術家たちの作品を展示し、宮の森という地固有の美術文化の足跡を確かめた。「40年のあゆみ展」では、開館以来、行ってきた事業を目的別に分類して大型のパネルで紹介するとともに、展覧会のチラシや館報、関連資料等を展示し、その実績を改めて迎った。

本郷新が手がけた野外彫刻の石膏原型やブロンズ・木彫などの代表作、制作道具等を常設展示するほか、テーマを設けて所蔵品を紹介した。本郷新や彫刻一般についての図書や、本郷新の蔵書などを紹介する図書・情報コーナーを設け、本郷新や彫刻芸術についての情報を発信することに努めた。

本郷新の功績を記念するとともに、若手作家の育成を願った本郷の遺志を受け、60歳未満の若い彫刻家を対象に、優れた彫刻作品に「本郷新記念札幌彫刻賞」を贈る事業。今年度は受賞記念展覧会を開催した。

| | |
|--|--|
| <p>▽ 彫刻を中心とした美術に関する講座等</p> <p>▼ 普及事業 ●子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」(彫美・鑑賞コース、彫美・表現コース)【自主事業(札幌市補助金事業)】 参加校数:15校24回(彫美・鑑賞コース13校19回、彫美・表現コース2校5回) 参加者数:児童822人(彫美・鑑賞コース759人、彫美・表現コース63人)、引率76人(彫美・鑑賞コース65人、彫美・表現コース11人) ●彫美連続講座2021 実施回数:3回 参加者数:162人 会場:札幌市民交流プラザ(内1回はオンラインのみ) ●造形教室 ・夏休み子ども造形教室 参加者数:24人 ・冬休み造形教室 参加者数:29人</p> <p>▼ 学校協力 ●聖心女子学院中等部による彫刻清掃ボランティア活動 参加生徒数:10人 ●学芸員資格取得希望の大学4年生を対象とした博物館実習(館園実習)の受け入れ 参加学生数:大学4年生3人(各7日間計45時間) ●三角山小学校3年生の総合的な学習の時間枠での博物館利用 参加児童数:144人</p> | <p>「ハロー！ミュージアム」では、対話による作品鑑賞とワークシートを組み合わせた「彫美・鑑賞コース」と粘土による造形(ひもづくり)に重きを置いた「彫美・表現コース」のいずれかを参加校が選択。15校(24回)が参加し、内容について高い評価を得た。 連続講座は6年目を迎え、彫刻について様々な面から知ることができるオンライン同時配信の講座として定着してきている。</p> |
| <p>▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業</p> <p>▼ 促進事業 ①サンクスデー 実施回数:1回 入館者数:238人</p> <p>②さあ！まわろうSAPPORO～見どころ施設無料化キャンペーン(記念館) 入場者数:1,443人</p> <p>▼ ボランティア活動の受け入れ ハロー！ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、今年度より図書・情報コーナーを常時開設したことに伴い、「図書・情報コーナーボランティア」と「スクラップブックボランティア」を一本化し、「資料整理ボランティア」と改称した。</p> <p>▼ 連携事業 財団他施設との連携 ・札幌文化芸術交流センター SCARTSと連携して「彫美連続講座」を3回開催した。</p> | <p>11月から12月にかけての「見どころ施設無料化キャンペーン」では、記念館に多くの人が訪れ、本郷新や当館についての関心を高めることが出来た。</p> |

| | | | | | | |
|----------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---|--|--------|
| (5)施設利用に関する業務 | ▽ 利用件数等 | | | | 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、催事として最大の集客を見込んでいたドラえもん展の会期の一部が休館。札幌市が定める公共施設の利用条件の中で、市民の一般利用を前提とする当施設は貸出中止期間が長期化した。7月の野外ステージ「PMFピクニックコンサート」やアートホール「バレエセミナー」などが直前に開催中止。8月以降、施設の貸出は進んだが、千鳥配席や最高入場者数制限などの条件が課せられた影響で、施設全体の来園者数は伸び悩み、平成18年度以来の20万人台と低迷した。 | |
| | 【札幌芸術の森】 | | | | | |
| | ・施設の利用状況 | | | | | |
| | | R2実績 | R3計画 | R3実績 | | |
| | アートホールアリーナ | 件数(件) | 194 | 204 | | 199 |
| | | 人数(人) | 10,715 | 14,240 | | 17,330 |
| | | 稼働率(%) | 65.2 | 63 | | 73.9 |
| | アートホール練習室 | 件数(件) | 1,358 | 1,687 | | 1,302 |
| | | 人数(人) | 9,387 | 14,885 | | 10,189 |
| | | 稼働率(%) | 43.8 | 51 | | 55 |
| 野外ステージ | 件数(件) | 25 | 33 | 27 | | |
| | 人数(人) | 2,443 | 16,429 | 8,736 | | |
| | 稼働率(%) | 16.4 | 19 | 67.5 | | |
| 各種研修室 | 件数(件) | 2,766 | 3,937 | 2,175 | | |
| | 人数(人) | 3,048 | 5,150 | 2,693 | | |
| | 稼働率(%) | 71.9 | 78 | 68.3 | | |
| 各種窯 | 件数(件) | 183 | 287 | 157 | | |
| | 人数(人) | 183 | 522 | 157 | | |
| | 稼働率(%) | 37.6 | 28 | 16.8 | | |
| 各種アトリエ・ロッジ | 件数(件) | 144 | 277 | 125 | | |
| | 人数(人) | 746 | 2,199 | 655 | | |
| | 稼働率(%) | 13.6 | 23 | 15.1 | | |
| 駐車場 | 件数(件) | 60,293 | 68,000 | 32,575 | | |
| ・入場者数 | | | | 彫刻美術館では、多彩な展覧会事業を開催する等、集客に向けた工夫を行っており、来館者数は前年度を下回ったものの、本市の要求水準9,000人を満たしている点は高く評価できる。以上により、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。 | | |
| (人) | | | | | | |
| | R2実績 | R3計画 | R3実績 | | | |
| 総入園者数 | 434,520 | 500,000 | 271,719 | | | |
| 芸術の森美術館 芸術の森野外美術館 | 177,066 61,246 | 170,000 50,000 | 109,390 22,221 | | | |
| ▽ 不承認 0件、取消し 229件、減免 397件、還付 83件 | | | | | | |

▽ 利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを7事業開催した。

- ①スプリングフェスタ2021
- ②芸森バースデー2021
- ③芸森ちいさな秋フェスティバル
- ④SAPPORO ART CAMP —Winter Flower Forest
- ⑤あしたのげいもり Extract
～世界一静かな森のフェスティバル～
- ⑥芸森フォトコンテスト
- ⑦芸森かんじきウォーク

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

| 展示会事業 | | R2実績 | R3計画 | R3実績 |
|-----------|-------|--------|-------|-------|
| 本館 展示室 | 展示会件数 | 6 | 5 | 6 |
| | 開館日数 | 220 | 247 | 205 |
| 記念館 | 展示会件数 | 2 | 2 | 2 |
| | 開館日数 | 267 | 299 | 214 |
| 本館入館者数 | | 10,863 | 9,000 | 7,502 |
| 記念館入館者数 | | 7,091 | 6,000 | 4,344 |

| その他事業 | | R2実績 | R3計画 | R3実績 |
|-----------------|------|------|------|------|
| 本館展示 室利用 | 利用件数 | 1 | 0 | 1 |
| | 利用日数 | 2 | 0 | 2 |
| 本館 研修室利 用 | 利用件数 | 17 | 9 | 8 |
| | 利用日数 | 35 | 16 | 15 |
| 本館 屋外利用 | 利用件数 | 2 | 2 | 2 |
| | 利用日数 | 12 | 12 | 12 |

▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件

▽ 利用促進の取組

▼ 「サンクスデー」として無料開館し、コロナ禍でも安心して楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。また、札幌市の観光需要及び施設への需要喚起を目的とする、無料対象施設として記念館の所蔵品展の観覧料を無料とした(令和3年11月20日～12月19日)

新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、冬季には札幌市の観光需要回復支援事業の補助などを受けて来園者の誘客促進事業を企画したが、新型コロナウイルス感染症の再拡大(第6波)や1月以降の大雪などにより誘客促進は限定的な成果にとどまった。一方で、芸術文化の普及という側面における利用促進策として、工芸分野の普及では制作キットのネット販売、美術展やライブの配信などを行った。

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、過去最長の85日間を臨時休館とした。しかし、「施設無料化キャンペーン」による誘客効果もあり、開館日数は少なかつたが入館者数の落ち込みを抑えることが出来た。その他事業における本館展示室利用が発生した理由は、コロナ禍の日程調整の中で、三角山小学校の総合的学習の時間での博物館利用(三角山小学校展)に急遽充てたためである。屋外利用の内、雪像彫刻展は展示期間のみならず、制作期間も実績に含めている。もう一件は近隣中学校生徒による野外彫刻清掃。

| | | | |
|---------|--|--|--|
| (6)付随業務 | ▼ 広報業務 【札幌芸術の森】 ▼ 広報の充実 園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。 ▼ ホームページによる情報発信の充実 平成28年11月に全面リニューアルを実施したホームページの内容をさらに充実させた。また、季節にあわせてトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。 サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 R3: 1,588,685件 (参考)R2: 2,032,547件 ▼ その他SNSによる情報発信の充実 Twitter、FacebookやInstagramでリアルタイムの情報発信を行った。 ▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸術の森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。 ▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2022年3月15日にホームページに公開した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 通常のホームページ運営に加え、FacebookやTwitterなどのSNSでのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数: 33,245件 (参考)R2: 35,902件 Facebookフォロワー数: 1,098件 (参考)R2: 1,056件 Twitterフォロワー数: 4,594件 (参考)R2: 4,288件 芸術の森の連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有もを行っている。 ▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を2022年1月25日に実施し、結果をホームページに公開した。 ▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実に進めよう準備を進めている。 | SNS更新にも力を入れ、より多くの閲覧者の心に届くような投稿を心がけた。また、更新頻度を高めることで、情報拡散に努めた。 ホームページウェブのアクセシビリティについては、令和元年度に改善された部分を継続して維持することができ、令和3年度の評価結果でも高い評価を受けた。 SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。 | A B C D 両施設とも、ホームページの充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。 札幌芸術の森については、ホームページの内容の充実を図るなど、閲覧者に分かりやすい情報発信やSNSを活用したタイムリーな情報発信に努めたほか、マスコミへのニュースリリースによる積極的な情報提供に努めた点は高く評価できる。 札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布、SNS等を利用した広報活動により、地域住民の参加を促している。SNSのフォロワーが増えており、認知度の向上が期待される。 以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。 |
| | ▼ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継ぎ業務なし) | | |

| 2 自主事業その他 | | A | B | C | D |
|---|---|--|---|---|---|
| ▽ 自主事業 | | | | | |
| <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼「札幌美術展 アフターダーク」(札幌市補助事業) ※展覧会事業再掲 テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は、文明の発達に伴い人々が常に向き合ってきた「夜」という時間帯に焦点を当てた。 私室で憩う人々や厳しい自然を生きる野生動物たち、覚醒と睡眠、生と死、夜空の星々、歓楽街のネオンなど、夜をめぐるさまざまな営為を主題とした表現活動を行う北海道および札幌の現代作家11組を選出、夜をめぐる表現の時代性や地域性を探求した。</p> <p><夜間開館> 4月3日と10日(いずれも土曜日)に午後7時まで延長開館。延長時間の観覧者数:4月3日40名、4月10日57名</p> <p>▼札幌美術展 佐藤武(札幌市補助対象事業) ※展覧会事業再掲 北海道札幌市・石狩市を拠点に活動する佐藤武の回顧展。地域にゆかりのある美術家を紹介してきた「札幌美術展」の第14回として行った本展では、佐藤の画業の変遷を詩とあわせて辿るとともに、立体作品や写真といった近年取り組む絵画以外の制作も紹介し、旺盛な創作活動を続ける作家像に迫った。 また、アーティストトークは、実開催のほかに期間限定で動画公開も行った。</p> <p>▼子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」 市内の小学校5年生児童を対象に、鑑賞活動及び造形活動の楽しさを体験するプログラムを実施。「芸術の森美術館コース」「野外美術館コース」「子どもアトリエコース」「彫美・鑑賞コース」「彫美・表現コース」の5つのコースを設定した。事前学習を担任教師が行うなど、学校が主体となって活動する方法を採用している。担当教師向けに、各コース会場において、活動に関する説明及び事前学習の模擬授業と教材(事前学習キット)の配布を行った。また、鑑賞学習をサポートする協力員(教育サービスボランティア)の養成講座を実施し、今年度は63名が活動した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、45校が中止となったが、日程変更を繰り返しても来園する学校も多かった。</p> <p>コース別参加校数等 ・芸術の森美術館コース:75校78回 ・野外美術館コース:43校43回 ・子どもアトリエコース:7校11回 ・彫美・鑑賞コース:13校19回 ・彫美・表現コース:2校5回 総参加校数:140校156回 総参加児童数:10,373人</p> | <p>展覧会事業①と同じ</p> <p>展覧会事業④と同じ</p> <p>「対話による鑑賞」や、制作活動を通じて、多くの「気づき」を促し、気づいたこと、感じたことを言葉で表現することで「言語力」を育むとともに、個々の捉え方が違うことやそれを認め合う「多様性」の受容も重点としている。 新型コロナウイルス感染予防のため、各コースの定員を減らし、実施回数を増やすなどの対応を行ったほか、子どもアトリエコースは表現コースを休止し、新たに鑑賞コースとして実施した。創作を行う彫美・表現コースでは、児童1人1人と向き合うことができた。 感染予防と両立できるより良い活動を模索していく。</p> | <p>ビュッフェレストランでは札幌近郊の食材やイベントに合わせた特別メニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは、地元作家の作品を展示・販売するなど、地元の魅力をPRする取組を行った。また、新たにオンラインショップを開設し、サービス向上に積極的に努めている。</p> <p>その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p> | | | |

| | |
|---|---|
| <p>▼ レストラン事業 センター2階の野菜を中心にしたピュウフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを通年で提供。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルア」を営業した。(利用者：4,895人)</p> <p>▼ 売店事業 直営で運営しているミュージアムショップでは、展覧会の大規模な特設ショップとは別に、オリジナルグッズや展覧会から連想されるグッズなどを独自に取り扱った。ドラえもん展では現代アート、キース・ヘリング展ではポップアートを特集するなど、好評を得た。また、令和4年2月からオンラインショップを開設し利用者のニーズへの対応とサービスアップに努めた。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 【札幌芸術の森】 ▼ 例年同様、令和3年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業を、近隣の就労支援施設に発注している。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。 ▼ 一部清掃、クリーニング業務を市内の福祉施設に発注した。</p> | <p>道産を中心とした食材にこだわったレストランのメニューは、幅広い世代に好評である。また、園内イベントや展覧会との相互的な魅力アップに努めた。</p> <p>展覧会の内容や取扱グッズのリサーチを行い、展覧会に関連したグッズを販売する工夫をすることと地元アーティストの紹介に努めたことで、来館者の楽しみをいっそう増やすことができた。今後、オンラインショップ取扱商品を拡大し充実を図りたい。</p> <p>業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことがで</p> |
|---|---|

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|------|--|------|---|------------------|--|---|---|---|---|---|--|--|--|--|
| <p>3 利用者の満足度</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>▽ 利用者アンケートの結果</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【札幌芸術の森】</p> <table border="1" data-bbox="438 1064 933 1485"> <tr> <td data-bbox="438 1064 518 1131">実施方法</td> <td data-bbox="518 1064 933 1131">令和3年4月～令和4年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1131 518 1355">結果概要</td> <td data-bbox="518 1131 933 1355">回答3,406件 (施設利用者アンケート364件、事業アンケート3,042件) 施設に対する総合的な満足度は92.3%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度についても、94.5%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度と同様の数値を維持できた。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1355 518 1485">利用者からの意見・要望とその対応</td> <td data-bbox="518 1355 933 1485">利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり</td> </tr> </table> | | 実施方法 | 令和3年4月～令和4年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。 | 結果概要 | 回答3,406件 (施設利用者アンケート364件、事業アンケート3,042件) 施設に対する総合的な満足度は92.3%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度についても、94.5%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度と同様の数値を維持できた。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。 | 利用者からの意見・要望とその対応 | 利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり | <table border="1" data-bbox="1093 1064 1220 1485"> <tr> <td data-bbox="1093 1064 1125 1086">A</td> <td data-bbox="1125 1064 1157 1086">B</td> <td data-bbox="1157 1064 1189 1086">C</td> <td data-bbox="1189 1064 1220 1086">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1093 1086 1220 1485">両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は、本市の要求水準である80%を超えている。</td> </tr> </table> <p>臨時休園が続いたため、主に施設利用者アンケートの回収数が減少してしまいましたが、コロナ禍においても職員の接遇及び施設についても高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。</p> | A | B | C | D | 両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は、本市の要求水準である80%を超えている。 | | | |
| 実施方法 | 令和3年4月～令和4年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 結果概要 | 回答3,406件 (施設利用者アンケート364件、事業アンケート3,042件) 施設に対する総合的な満足度は92.3%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度についても、94.5%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度と同様の数値を維持できた。 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利用者からの意見・要望とその対応 | 利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | B | C | D | | | | | | | | | | | | | |
| 両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は、本市の要求水準である80%を超えている。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------------------|---|--|
| 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 | | |
| 実施方法 | 無記名の記入方式(通年) アンケート用紙を本館ロビーと記念館2階に配置 ※令和3年5月4日～7月11日、8月31日～9月30日は臨時休館のため、アンケート回収無し。 | コロナ禍においても職員の接遇及び施設についても高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。 |
| 結果概要 | 回答525件 来館者の施設に対する総合的な満足度は約95.4% ('とても良い'、'良い'の合計)、職員の接遇についての満足度は約90.1%('とても良い'、'良い'の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。 | |
| 利用者からの意見・要望とその対応 | 【要望】外の像に鳥のフンが付着しているので、きれいにしたら良いと思う。 【対応】注視とこまめな清掃により改善した。 【要望】こんな不便なところに来て、中で飲食不可なのはツライです。 【対応】新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視しつつ、緩和を検討している。 | |

| | | | | | | | | | |
|--|----------|----------|----------|--|---|---|---|---|---|
| 4 収支状況 | | | | | | | | | |
| ▽ 収支 (千円) | | | | | | | | | |
| 項目 | R3年度計画 | R3年度決算 | 差(決算-計画) | | 収入において、新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた野外ステージやアートホールアリーナなどの施設でのイベント利用が戻りつつあり、前年度より若干の増収となった。しかし、最高入場者数の入場制限、野外美術館の休館などにより、入館者数は低迷したことから、観覧料、駐車料金利用料などが大幅に減少し、減収となった。 支出においては、事業中止に伴う支出減はあったものの、施設休館を利用した際の施設修繕や燃料費高騰の影響を受け、支出は増加した。こうしたことから、公的補助金や民間助成金の獲得を行い、収支の回復に努めた。 | A | B | C | D |
| 収入 | 856,539 | 801,049 | ▲ 55,490 | | | | | | |
| 指定管理業務収入 | 795,493 | 743,509 | ▲ 51,984 | | | | | | |
| 指定管理費 | 670,246 | 690,298 | 20,052 | | | | | | |
| 利用料金 | 47,338 | 29,834 | ▲ 17,504 | | | | | | |
| その他 | 77,909 | 23,377 | ▲ 54,532 | | | | | | |
| 自主事業収入 | 61,046 | 57,540 | ▲ 3,506 | | | | | | |
| 支出 | 892,507 | 861,211 | ▲ 31,296 | | | | | | |
| 指定管理業務支出 | 814,240 | 787,180 | ▲ 27,060 | | | | | | |
| 自主事業支出 | 78,267 | 74,031 | ▲ 4,236 | | | | | | |
| 収入-支出 | ▲ 35,968 | ▲ 60,162 | ▲ 24,194 | | | | | | |
| 利益還元 | | | 0 | | | | | | |
| 法人税等 | | | 0 | | | | | | |
| 純利益 | ▲ 35,968 | ▲ 60,162 | ▲ 24,194 | | | | | | |
| ▽ 説明 | | | | | | | | | |
| <p>▼ 指定管理費について、今期は令和2年6月～令和3年10月分の施設キャンセルに係る補填金を受けたことにより、増収となった。</p> <p>▼ 利用料金収入とは、野外美術館観覧料、工房利用料、駐車場利用料等である。令和3年度は、新型コロナウイルスの影響による施設の休館や貸館事業の中止により、利用料金全体で計画比17,504千円の減収となった。</p> <p>▼ 野外ステージやアートホールなどの貸出施設の利用は、前年度比で200万円ほどの増収となった。 【令和2年度】 ・アートホールアリーナ 3,839,480円 ・野外ステージ 674,060円 【令和3年度】 ・アートホールアリーナ 4,848,915円 ・野外ステージ1,548,030円</p> <p>▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等である。新型コロナウイルスの影響による展覧会の会期縮小や、パレエセミナー等大規模イベントの中止により、計画比54,532千円の減収となっている。</p> <p>▼ 指定管理業務支出は、事業の中止・縮小による諸謝金や委託費の減少が主な要因となり、計画比27,060千円の減となった。</p> | | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|---|---|----|----|
| <確認項目> ※評価項目ではありません。 | | | | |
| ▽ 安定経営能力の維持 | | 適 | 不適 | |
| ▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 | <p>▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。</p> <p>▼ 個人情報保護条例に関し、令和3年11月にサッポロ・シティ・ジャズ事業において、メールの一斉送信時にBCCで送信するべきところ、CCで送信しメール会員約200人分のアドレスが流出する事態が発生した。</p> <p>▼ 情報公開請求については、札幌芸術の森において、5件あった。</p> <p>▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。</p> | 個人情報流出後、財団全部署でメールの送信状況について状況把握のため調査を行い、流出防止のためのマニュアルの作成、研修の実施により再発防止に努めている。 | 適 | 不適 |

Ⅲ 総合評価

| 【指定管理者の自己評価】 | |
|--|--|
| 総合評価 | 来年度以降の重点取組事項 |
| <p>【札幌芸術の森】</p> <p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症により、施設の休館、事業の中止など、影響を受けたが、展覧会や公演の配信などオンラインの活用、自宅で制作体験ができるクラフトキットの企画開発、施設特性を活かした屋外での事業展開など、工夫をしながら事業を推進した。</p> <p>施設の入園者数については、令和2年度はコロナ感染拡大状況が落ちついていたことからムーン展の来場者が多かったこと、また札幌市による野外美術館の無料化月間対策により、例年並み入園者数を維持することができた一方、令和3年度は、「THE ドラえもん展 SAPPORO 2021」の会期中が1か月ほど休館であったこと、また、PMFピクニックコンサートやバレエセミナーなど大規模イベントが中止となったこと、さらに、8月以降も施設の貸出においても、千鳥配席や最高入場者数の制限などの集客を阻害する条件が付けられたことにより、来園者数は前年度の60%程度の271,719人に留まった。</p> <p>音楽・舞台芸術事業では、15回目の開催となったサッポロ・シティ・ジャズにおいて、7月に2年ぶりに野外ステージで「ノースジャムセッション」、12月に札幌市民交流プラザで「シアタージャズライブ」など、感染症対策を講じたうえでプログラムを市民に提供したほか、ジュニアジャズスクール及びユースジャムセッションなどの次世代の担い手の育成や普及プログラムに努めた。一方で、バレエセミナーは、海外の講師に代わり、国内の著名な講師により開催準備を進めていたが、感染状況の悪化により直前に中止を余儀なくされた。</p> <p>美術館では、ドラえもん展など親しみやすい展覧会を開催する一方で、北海道で活動する画家・佐藤武の回顧展を行うなどさまざまな展覧会を行った。また、「ハロー！ミュージアム」や「きみのみかた みんなのみかた」展などを通じて教育普及にも力を入れた。</p> <p>工芸・工房事業では、感染症対策のため受講者数を限定しつつ、講習会を再開した。気軽に体験できる当日予約で受け付けたコースは、多くの方にご参加いただくことができた。さらに、民間の商業施設とのタイアップによるアウトリーチ事業も行い、工芸の普及に努めた。</p> <p>この他、屋内で大勢を一堂に集めることが難しい状況となったため、感染リスクの低い屋外施設を活用した集客イベントを企画し、冬季開催の「SAPPORO ART CAMP」や「かんじきウォーク」は多くの参加者を見込んだが、例年になく大雪により限定的な集客に留まった。</p> | <p>第4期指定管理の運営に係る基本方針に基づき、事業を実施する。</p> <p>札幌芸術の森の野外美術館は、開館から35年以上経過し、作品のみならず周辺環境の劣化、損壊が進行していることから、計画的に整備を行っていく。</p> <p>また、道内外から大勢の観光客が訪れるよう、また、市民の日常的な憩い空間として利用できる公園としての魅力を向上に取り組みノウハウ、経験及びこれまでのデータを活用しつつ札幌市と連携して実施する。</p> <p>広大な敷地に点在するさまざまな施設、また公園施設としての外構も老朽化や荒廃が進んでいるため、これらについても札幌市と協議しながら安全で快適な空間の確保に努める。</p> <p>音楽、舞台芸術、美術、工芸の各分野の普及振興のために、札幌市の文化芸術を支える施設として、高い水準の芸術鑑賞の機会をつくり出す事業、次世代の担い手の育成や市民活動及び交流が活発に行われる場の提供事業などを引き続き行う。</p> <p>事業の推進に当たっては、当財団が管理運営している他施設をはじめ、民間組織や各種団体との連携を図ることと、芸術の森だけでは成し得ない企画の立案や施設の利用促進に努める。また市内中心部の施設を活用することも図り、より気軽に市民が参加できるアウトリーチ型の事業も多く企画していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策については、感染状況に応じたガイドラインを見直し、安全性を確保しながら利用者のニーズを損なわない柔軟な施設運営に努める。感染対策を含めた施設の運営は、札幌市と関係法令や仕様書を確認しながら整理し、確実な対応を行う。</p> |

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、過去最長となる85日間の臨時休館を余儀なくされたが、「施設無料化キャンペーン」による誘客効果もあり、入館者数の大幅な減少は回避できた。また、開館40周年の記念すべき年に、来館者数40万人を記録することができた。

展覧会事業では、開館40周年を記念して、本郷新記念札幌彫刻美術館が位置する「宮の森」という地域に焦点を当てた展覧会を開催。本郷新をはじめとした宮の森ゆかりの美術家たちの作品を展示し、宮の森という地固有の美術文化の足跡を確かめた。「40年のあゆみ展」では、開館以来、行ってきた事業を目的別に分類して大型のパネルで紹介するとともに、展覧会のチラシや館報、関連資料等を展示し、その実績を改めて迎った。第3回本郷新記念札幌彫刻賞受賞者の展覧会「高橋喜代史展」では、漫画に用いられる擬音語をモチーフとした立体造形や、他者との隔たりや繋がりを問うパフォーマンスを記録した映像インスタレーションなど、これまでの軌跡をたどる作品や本展のために制作された最新作を展覧し、異なる領域との橋渡しを試みる高橋の表現の現代性に迫った。

また、前年度の本郷新没後40年記念、また当該年度の開館40周年記念として、当館が所蔵する1,771点の作品をできるだけ多く紹介していくシリーズ「本郷新・全部展」を継続して開催した。これにより、本郷新の表現の幅広さと、当館の充実したコレクションを広く知ってもらう機会を創出することができた。

その他の事業でも、感染防止対策を徹底しながら、「ハロー！ミュージアム」のほか、彫美連続講座、造形教室などの人気事業は継続して内容の充実にも努め、サンクスデーでは幅広い層に美術館をPRすることができた。施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。

本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を活かした魅力ある事業展開に引き続き努め、入館者の増加を図っていく。事業の企画立案に当たっては、彫刻芸術の真価を伝えるものから、広く立体芸術の魅力を伝えるものまで、様々に展開する。作家本人のアトリエであった記念館では、建物がもつ雰囲気を活かし、本郷新の芸術と業績を豊富な作品と資料により紹介するとともに、館が所蔵する彫刻芸術についての資料を広く一般に公開し、市民の文化芸術活動の支援を推進する。

普及事業では、ハロー！ミュージアムや長年携わってきた近隣小学校への協力など、引き続き教育の場としての美術館の特色を打ち出していく。

また、近隣はもとより札幌市全域の地域とのつながりを引き続き重視し、地域に親しまれる美術館を目指すとともに、財団他施設や民間企業との連携・協力関係を築き、事業展開の幅を広げていく。

施設の維持管理については、札幌市と協議しながら、安全性の向上と快適な環境づくりに努める。

| 【所管局の評価】 | |
|---|--|
| 総合評価 | 改善指導・指示事項 |
| <p>芸術の森においては、業務上の記録を適切に管理するなど、管理運営体制には改善すべき点があるものの、高い市民満足を得ている事業を実施しているなど、芸術の森全体としてみれば、おおむね良好な運営がなされている。彫刻美術館においては、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。</p> <p>芸術の森では、多彩な展覧会や野外美術館を活用したイベントを実施したほか、オンライン配信等を積極的に活用するなど、新型コロナウイルス感染症の影響下において、創意工夫をしながら事業実施に努めた点は高く評価できる。</p> <p>彫刻美術館では、「宮の森」と美術文化を繋げたユニークな展覧会や第3回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念展覧会を開催するなど、市民に文化芸術に触れる機会を提供したことについて高く評価できる。</p> <p>芸術の森の収支状況については、新型コロナウイルスによる施設休館等の影響を受け、全体としてマイナス決算であり、厳しい経営状況が続いている。安定的な施設運営を行っていくために、民間助成金の獲得等に努めるとともに、緻密な事業計画の作成や経費削減などに引き続き取り組んでいく必要がある。</p> | <p>芸術の森、彫刻美術館ともに、新型コロナウイルスの影響を受けて、中止や企画変更となった事業はあったものの、工夫を凝らした事業を数多く実施している。今後も、業務計画書に沿って魅力ある多彩な事業の実施に努めていただきたい。</p> <p>経営面においては、経費削減や自主事業収入の向上に引き続き努めていただきたい。</p> <p>利用者の安全確保については、定期的な点検及び維持管理、委託業務等の適切な監督・履行確認等の徹底を図ること。</p> <p>また、経理関係事務の再点検、適切な業務の記録と保存、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告については、引き続き取り組むこと。</p> |